

## &lt;地場産農産物の加工・販売に取り組む事例&gt;

## ○中山間協定組織を母体とする法人化で担い手の確保を目指す

## 1. 集落協定の概要

|                 |                                                                 |                     |    |           |
|-----------------|-----------------------------------------------------------------|---------------------|----|-----------|
| 市町村・協定名         | 京都府 <sup>よきぐん</sup> 与謝郡 <sup>よきのちよう</sup> 与謝野町 <sup>よざ</sup> 与謝 |                     |    |           |
| 協定面積<br>57.9ha  | 田 (100%)                                                        | 畑                   | 草地 | 採草放牧地     |
|                 | 水稻                                                              |                     |    |           |
| 交付金額<br>1,089万円 | 個人配分                                                            |                     |    | 40%       |
|                 | 共同取組活動<br>(60%)                                                 | 役員報酬、費用弁済           |    | 4%        |
|                 |                                                                 | 用水路の改修              |    | 23%       |
|                 |                                                                 | 農道・用水路の草刈り・溝掃除の共同活動 |    | 19%       |
|                 |                                                                 | 事務費                 |    | 1%        |
|                 |                                                                 | 有害獣対策               |    | 13%       |
| 協定参加者           | 農業者65人、農業生産法人2、非農業者3人、農事組合等2                                    |                     |    | 開始：平成12年度 |

## 2. 取組に至る経緯

高齢化の進行や農産物価格の低迷、また、鳥獣被害による生産意欲の減退により、与謝集落を取り巻く状況が、年々、厳しさを増していく中で、集落の将来について話し合いが重ねられ、平成12年度より中山間地域等直接支払制度に取り組んでいる。

本制度を契機として、12年8月に「与謝中山間振興会」を設立し、これまで農家が個別に行っていた農道・水路の管理作業や農業用機械の共同化を実施して、農業生産活動を集落で補完できる仕組みづくりを構築している。

## 3. 取組の内容

与謝中山間振興会では、農地の保全や水路の維持管理、補修等を行う法面担当委員会、旧加悦町が整備した「大豆・米乾燥調整施設」（ミニライスセンター）の管理・運営を行う施設運営委員会など、部門毎に委員会を設け、活動を行っている。

こうした中、23年6月には、施設運営委員会が母体となり、株式会社与謝ファームとして法人化。与謝野町内でも集落を母体とした法人化の第1号であり、今後、地域農業の振興に大きく貢献するものと期待されている。



【直営で舗装された農道と法面草刈】



【大豆・米乾燥調整施設】

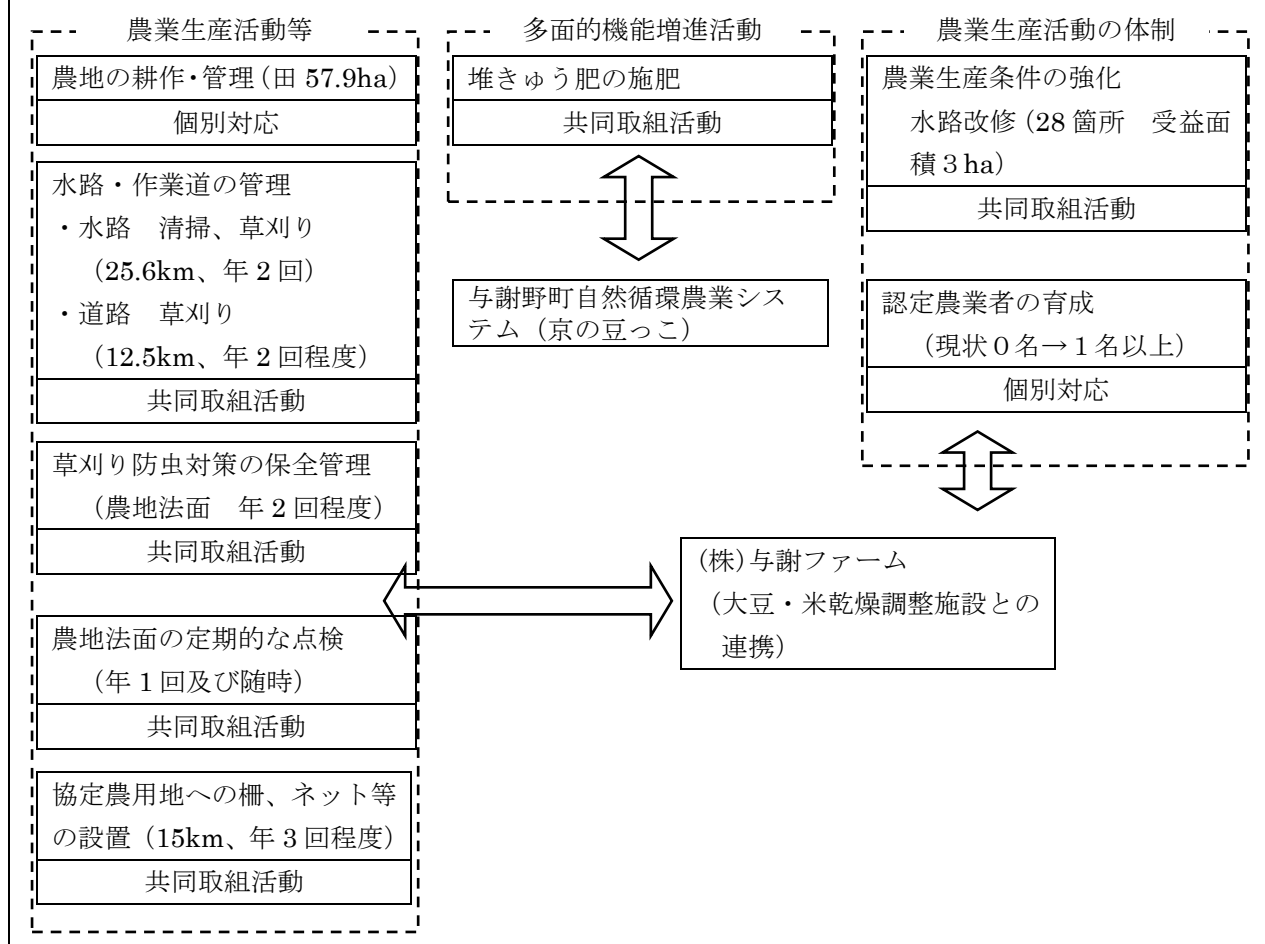
#### [集落の将来像]

- 農地集積対象者を核とした農業生産活動等の体制整備
  - ・ 集落の農地は集落で守る体制づくりの構築
  - ・ 水稻栽培中心の経営からの転換の模索



#### [将来像を実現するための活動目標]

- 認定農業者を育成し、農地集積、農作業受委託を図る
- (株)与謝ファームを通じて、地元農産物や特産米の生産支援、集出荷



#### 4. 今後の課題等

与謝集落では、担い手の確保が急務となっており、IターンやUターン者など、担い手となる新規就農者を確保するためには、今後、収益性の確保が必要となることから、米だけではなく、加工も含め収益性の高い作物に取り組む必要がある。

また、23 年に法人化した(株)与謝ファームでは、米の乾燥、調製等の収益事業が柱となっているが、今後は、より収益性の高い事業にも取り組んでいく必要がある。

「与謝中山間振興会」と(株)与謝ファームが有機的に連携して、取組みを進めていく。

#### [第 2 期対策の主な成果]

- 直営の農道舗装 延長 9,600m
- 大豆・米乾燥調整施設の運営体制の確立
- 獣害対策 獣害防止柵設置 延長 1,300m
- 自然循環型農業の推進 「京の豆っこ」(有機質肥料)を使用した米栽培